

観光社会資本の事例

テーマ	魅力いっぱいロマンあふれる観光スポット・日本三景「天橋立」	
【施設の状況写真】		
		
<p>天橋立駅のある文珠側から見た天橋立。天に昇る龍のように見えることから「飛龍観」と呼ばれている。</p>	<p>文珠の対岸の府中にある傘松公園から見た天橋立。傘松公園は「股のぞき」発祥の地であり、天橋立を股からのぞくと、天に架かる橋のように見える。</p>	<p>天橋立公園内にある「廻旋橋」。天橋立で二分された内海と外海をつなぐ「天橋立運河」に架かる橋。船が通るたびに90度回転する。</p>
【施設の利用写真】		
		
<p>毎年7月24日に行われる文殊堂出船祭では、廻旋橋の上を龍舞の龍が通る。</p>	<p>毎年7月の中旬には、天橋立「炎の架け橋」が行われ、天橋立がかがり火で彩られる。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>安芸の宮島、陸前の松島と並ぶ日本三景として有名な天橋立は、年間を通じて多くの観光客が訪れる代表的スポットで、長さ 3.6km、幅 20～170m の砂嘴によって形成され、大自然が作りだした珍しい現象として学術的にも貴重な砂浜です。砂地の中に約 8,000 本もの松並木が茂り、天に舞う白い架け橋のように見えることからこの名がつけました。散策やサイクリングのほか、股のぞき発祥の地・傘松公園からの「斜め一文字」、天橋立ビューランドからの「飛龍観」、雪舟観展望所からの「雪舟観」など、展望所からの見物も楽しめます。夏には海水浴のほか、天橋立「炎の架け橋」や文殊堂出船祭など様々なイベントも行われています。また、天橋立内には、名水百選の「磯清水」や、船が通るたびに回転する珍しい橋「廻旋橋」、剣豪・岩見重太郎仇討ちの場など様々な見どころもあります。</p>		

テーマ	魅力いっぱいロマンあふれる観光スポット・日本三景「天橋立」
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称：天橋立海岸</p> <p>所在地：京都府宮津市字文珠</p> <p>事業名：宮津港海岸天橋立地区浸食対策事業（サンドバイパス工法）</p> <p>事業主体：京都府</p> <p>事業期間：昭和61年～平成24年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>海岸侵食の阻止効果</p> <p>天橋立海岸では、上手側に位置する日置及び江尻港の防波堤建設や、河川からの流出土砂の減少で漂砂が遮断し、昭和30年代から砂浜がやせ細り、海浜浸食が顕著になりました。天橋立の存在そのものが危ぶまれる状態を回避するため、砂浜流出防止策として多くの突堤を設置し、61年からは海岸の上手側に強制的に砂を補給するサンドバイパス工法を実施しています。</p> <p>天橋立サンドバイパス工法は、漂砂上手側にある日置及び江尻の両防波堤付近に堆積する砂を船で運搬し、天橋立の砂洲根元部分に人為的に砂の供給を行い、波のエネルギーにより天橋立全域に砂を行き渡させる方法です。近年ではサンドバイパス工法に使用する砂の有効利用を考え、漂砂の働きにより過剰堆積した砂を再び砂洲根元に供給する手法（リサイクル砂）も実施しています。</p> <p>絶え間なく続く海岸浸食を抑えるため、今後も継続してサンドバイパス工法を実施し天橋立の景観を守ります。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>天橋立観光協会 http://www.amanohashidate.jp/</p>	